

講義コード	11C0273501	授業形態	講義	事前登録の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	EU 経済論2 / EU 経済B				中尾 将人			第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	EU 経済がどのようにして成立し、どのような特徴を持っているのかを説明する。特に、ユーロ創設について説明する。また、経済統合による便益と費用についても説明する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ユーロの成り立ちを説明できる。</li> <li>2. 通貨統合の便益と費用について説明できる。</li> <li>3. ユーロ圏が抱える問題点を指摘できる。</li> </ol>								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。授業外学修では、講義で扱った内容のテキスト該当箇所を読み、復習を行うこと。								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション: ユーロとは</li> <li>2. EMS と固定相場制分析</li> <li>3. EU におけるマクロ経済協力</li> <li>4. ユーロ創設 (1): ユーロ創設への動き</li> <li>5. ユーロ創設 (2): 最適通貨圏理論</li> <li>6. 世界金融危機とユーロ危機 (1): 世界金融危機</li> <li>7. 世界金融危機とユーロ危機 (2): ユーロ危機</li> <li>8. 世界金融危機とユーロ危機 (3): 危機対策とその後の問題</li> <li>9. ユーロ圏の金融政策と ECB</li> <li>10. ユーロ圏の財政政策と安定成長協定</li> <li>11. フランスと EU 経済</li> <li>12. ドイツと EU 経済</li> <li>13. イギリスと EU 経済</li> <li>14. 中・東欧諸国と EU 経済</li> <li>15. まとめ</li> </ol>								
成績評価の方法	期末試験 (60%)、中間試験 (30%)、授業への取り組み姿勢 (10%) で評価する。								
フィードバックの内容	リアクション・ペーパーに対するフィードバックを翌週の授業内にて行う。								
教科書	『現代ヨーロッパ経済』田中素香・長部重康・久保広正・岩田健治 (有斐閣) 2014								
指定図書									
参考書	『クルーグマン国際経済学 理論と政策 (原書第10版) 上: 貿易編』P. R. クルーグマン, M. オプストフェルド, マーク J. メリッツ (丸善出版) 2017, 『クルーグマン国際経済学 理論と政策 (原書第10版) 下: 金融編』P. R. クルーグマン, M. オプストフェルド, マーク J. メリッツ (丸善出版) 2017, 『EU 経済統合』J・ベルクマンズ (文真堂) 2004								
教員からのお知らせ	EU 経済論1 /EU 経済A と EU 経済論2 /EU 経済B は連続した内容となっているため、合わせて受講することが望ましい。								
オフィスアワー	授業終了後、次の授業に支障のない範囲で教室内にて質問に対応する。								
その他									